

特集

もう一度捉え直す「事例検討会」の意義

なぜ事例検討会を行うのか 自らの体験を振り返って ————— 米山奈奈子

事例検討会の開き方 メンバー形成からフォローアップまでのポイント ————— 野中 猛

実践例① 他職種が連携したネットワークにおける事例検討会 ————— 谷部陽子

実践例② 職場内における事例検討会 OJT としての意味合い ————— 森田佳重

実践例③ 有志によるインフォーマルな事例検討会 難病ケアに関する事例検討会の実践 — 西田厚子

編集後記

●本誌を担当して2か月目に入った。だんだんと本誌に関する仕事量が増えてくる。普通の雑誌作りの流れとは逆行する形で、素読み、校正、入稿、原稿整理、原稿受付の順に仕事が増えてくる。ここまでに関わった仕事はいわばマニュアルどおりというか、ある程度決められた手順があるので、一を知れば十を知るような感じで慣れてしまえるものだ。しかしいよいよ、次の段階は本誌の特集と連載の企画の執筆依頼、さらに企画そのものを立てることが必要になる。

●最近、巷で話題になっている『不機嫌な職場』という本に「プロ」とは「その仕事を顧客にとって最高のパフォーマンスで提供できる人」とあった。また、「自分の仕事で最高の仕事をしなかったら、周辺分野の知見をあわせ持つこと」ともあった。NHK テレビの番組では「プロフェッショナル—仕事の流儀」という番組がさまざまに話題となる。弊誌の編集くらいではとても編集のプロをめざすなどおこがましいが、職業人としてのプロくらいはめざしたいと思う。
(杉之尾)

●毎年年末に、その年の世相を現わす「今年の漢字」が発表されますが、2008年度は『変』でした。「change」を主張したオバマ次期米国大統領の当選や日本の首相の交代、株安に象徴される世界経済の変動、温暖化問題に関連する気候変動などが理由です。ちなみに、2位以下を並べると、「金」「落」「食」「乱」「高」「株」「下」「毒」「薬」。何だか続けてよむと、暗澹たる“変”な世の中を反映しているようです。

こうやって見ると、漢字という言葉は一文字で切り取ると、様々なイメージを喚起させる力を持っていることを感じます。では、「保健」というワードはどうでしょう？「健康を保つ」というのが辞書的な意味ですが、「保」が意味する「保つ」とはどのような状態のことでしょうか？そして、そもそも「健康」とはどんな状態を意味するのでしょうか？回答者の数だけ答えが生まれそうですね。

今年も保健師の専門性が問われる1年になりそうです。
(和田)

保健師ジャーナル 第65巻2号 2009年2月10日発行(毎月1回10日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd, 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2009, Printed in Japan

1部定価1,365円(本体1,300円+税5%) 2009年年間購読料15,000円(税込,送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部(03)3817-5657 社内案内(03)3817-5600

保健師ジャーナル編集室(03)3817-5774 電子メールアドレス hokenshi@igaku-shoin.co.jp 担当/杉之尾・和田・安部

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS<(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の承諾を得てください。1348-8333/09/¥250/論文/JCLSが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCLS宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。